

令和4年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第12号（3月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和5年2月23日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	少ない	平年並が多い

○3月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			2月の発生量 (平年比)	2月からの 増減	3月の発生量 (平年比)	
キャベツ	①	菌核病	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移 (→)
	②	コナガ	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	③	チョウ目幼虫	多	→	やや多	平年の発生量の推移 (→)
レタス	①	菌核病	多	↓	やや多	平年の発生量の推移 (↓)
	②	アブラムシ類	やや多	→	やや多	例年の発生量の推移 (→)
かぼちゃ	①	うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	②	アブラムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	③	ハモグリバエ類	多	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
ニガウリ（施設）	①	うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	②	斑点病	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	③	ミナミキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	④	タバココナジラミ	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移 (→)
	⑤	アブラムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○3月の発生予報つき（沖縄群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			2月の発生量 (平年比)	2月からの 増減	3月の発生量 (平年比)	
ピーマン (施設)	①	うどんこ病	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	②	ミナミキイロアザミウマ	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	③	ヒラズハナアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	④	タバココナジラミ	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移 (↗)
	⑤	ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
トマト (施設)	①	黄化葉巻病	やや多	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	②	うどんこ病	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	③	タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
さい (平張んげん)	①	ミナミキイロアザミウマ	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
	②	タバココナジラミ	やや多	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	③	ハモグリバエ類	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
（温州みかん）	かいよう病	樹上の葉、枝などの病斑が伝染源になるため、発病葉・枝を除去する。またミカンハモグリガの食害痕から侵入し発病することから、発芽期のハモグリガ防除は重要である。
	そうか病・黒点病	そうか病、黒点病の被害は降雨による影響が大きいことから、梅雨期前の3月頃（発芽期）に防除対策を重点的に行うと効果的である。
（タカンカニン）	かいよう病	樹上の葉、枝などの病斑が伝染源になるため、発病葉・枝を除去する。またミカンハモグリガの食害痕から侵入し発病することから、発芽期のハモグリガ防除は重要である。
	そうか病・黒点病	そうか病、黒点病の被害は降雨による影響が大きいことから、梅雨期前の3月頃（発芽期）に防除対策を重点的に行うと効果的である。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染することが確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
	ドクガ類	農家によると、ドクガ類の発生が見られはじめています。 花穂および新葉で発生が見られるので、施設内を見回り、早期発見・防除に努める。
	コナカイガラムシ類	農家によると、コナカイガラムシ類の発生が見られはじめています。 花穂および新葉で発生が見られるので、施設内を見回り、早期発見に努める。 発生が認められたら、その都度手で潰すかブラシ等で擦り落とす。

令和4年度 宮古群島 病害虫発生予報 第12号（3月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和5年2月23日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	少ない	平年並が多い

○3月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			2月の発生量 (平年比)	2月からの 増減	3月の発生量 (平年比)	
かぼちゃ	①	うどんこ病	並	↓	やや少	平年の発生量の推移（↓）
	②	ハモグリバエ類	並	↑	並	平年の発生量の推移（↑）
（施設・が立ん） 栽培	①	うどんこ病	やや多	↑	並	例年の発生量の推移（↑）
	②	ミナミキイロアザミウマ	並	→	並	例年の発生量の推移（→）
ニガウリ（施設）	①	うどんこ病	並	↑	並	平年の発生量の推移（↑）
	②	ミナミキイロアザミウマ	（発生なし）並	↑	並	平年の発生量の推移（↑）
	③	タバココナジラミ	並	↑	並	平年の発生量の推移（↑）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マンガ	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染することが確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
	ドクガ類	花穂および新葉で発生が見られるので、施設内を見回り、早期発見・防除に努める。
	コナカイガラムシ類	コナカイガラムシ類の発生が見られはじめている。 花穂および新葉で発生が見られるので、施設内を見回り、早期発見に努める。 発生が認められたら、その都度手で潰すかブラシ等で擦り落とす。
かぼちゃ	アブラムシ類	有翅虫の飛来侵入が確認されている。 葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。 本種はウイルス病を媒介する。

令和4年度 八重山群島 病害虫発生予報 第12号（3月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和5年2月23日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	少ない	平年並が多い

○3月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			2月の発生量 (平年比)	2月からの 増減	3月の発生量 (平年比)	
水稲	①	スクミリンゴガイ	並	→	並	平年の発生量の推移（→）

かぼちゃ	①	うどんこ病	多	↗	多	平年の発生量の推移（↗）
	②	アブラムシ類	多	→	多	平年の発生量の推移（→）
	③	ハモグリバエ類	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移（↗）
（二） 施設ウリ	①	うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	②	斑点病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出雷期から感染することが確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
	ドクガ類	農家によると、ドクガ類の発生が見られはじめています。 花穂および新葉で発生が見られるので、施設内を見回り、早期発見・防除に努める。
	コナカイガラムシ類	農家によると、コナカイガラムシ類の発生が見られはじめています。 花穂および新葉で発生が見られるので、施設内を見回り、早期発見に努める。 発生が認められたら、その都度手で潰すかブラシ等で擦り落とす。

向こう1か月の天候の見通し
 沖縄地方（02/25～03/24）

予報のポイント

- 低気圧や前線の影響を受けにくいいため、向こう1か月の降水量は少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。

1か月の平均気温・降水量・日照時間

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
沖縄地方	低30 並 40 高30% ほぼ平年並 の見込み	少 50 並30 多20% 少ない 見込み	少20 並 40 多 40 % 平年並か多い 見込み
数値は予想される出現確率（%）です			

数値予報モデルによる予測結果

1か月平均の地上気圧（左図）は、九州・沖縄付近では平年より高く、高気圧に覆われやすいと予想されます。

上空約1500mの気温（右図）は、沖縄付近では、平年からの隔たりは小さいでしょう。

2/25 - 3/24

CONTOUR PSEA: 4hPa ANOMALY: 2hPa

地上気圧

2/25 - 3/24

CONTOUR TEMP.: 3°C ANOMALY: 1°C

上空約1500mの気温

季節予報では、よく似た初期値から出発した多数の数値予報結果を利用します（アンサンブル予報）。多数の結果の平均（上図など）から大気の状態を判断し、また結果のパラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します。

週別の平均気温と天候

	平均気温（1週目） 02/25～03/03	平均気温（2週目） 03/04～03/10	平均気温（3～4週目） 03/11～03/24
週別の天候	湿った空気や寒気の影響で雲が広がりやすいですが、低気圧や前線の影響を受けにくいいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。	天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けにくいいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
沖縄地方	低 40 並 40 高 20 % 平年並か低い 見込み	低 20 並 50 高 30 % 平年並 の見込み	低 30 並 30 高 40 % ほぼ平年並 の見込み
数値は予想される出現確率（%）です			

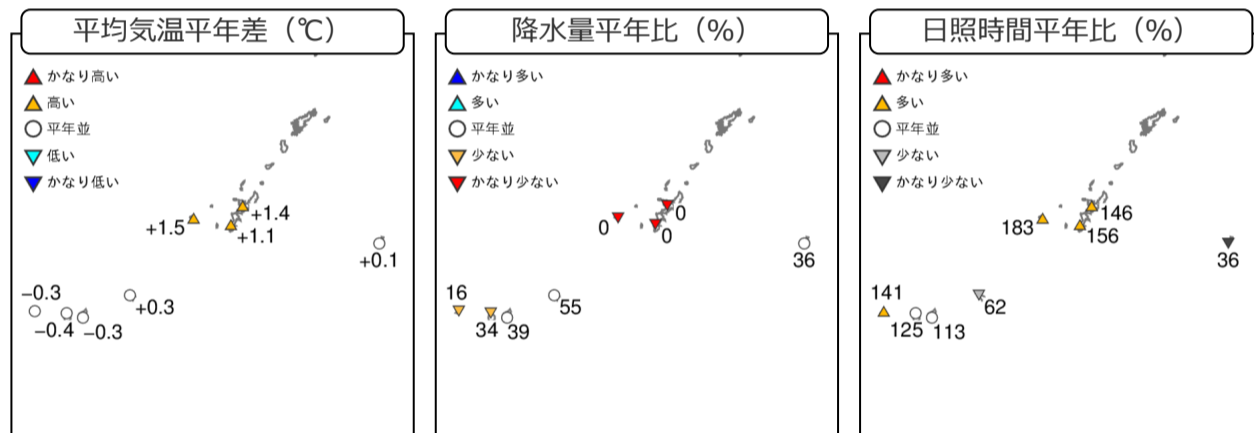
明日から1週間の、日別の天気や気温などは、週間天気予報 (<https://www.jma.go.jp/bosai/forecast/>) を参照してください。

季節予報は、予測の確からしさに応じて、気温や降水量などを「低い（少ない）、平年並、高い（多い）」となる確率で表しています。

「平年並」がどの程度の値になるのかについては、参考資料 (<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/sankou/okinawa1.html>) をご覧ください。

文章による解説については、確率の大きさに応じた言葉で表現しています。詳しくは本資料末尾の「[参考（確率予報の解説）](#)」をご覧ください。

最近1週間の天候経過



(実況) 02/16～02/22	平均気温平年差	降水量平年比	日照時間平年比
沖縄地方	+0.5℃ (平年並)	21% (少ない)	132% (多い)

参考

確率予報の解説（ここでは確率予報を次のような言葉で解説しています）

出現確率（低い（少ない）：平年並：高い（多い））	解説
高い（多い） 確率が50%以上	高い（多い）見込み
(20 : 40 : 40)	平年並か高い（多い）見込み
平年並の確率が50%以上	平年並の見込み
(40 : 30 : 30) (30 : 40 : 30) (30 : 30 : 40)	ほぼ平年並の見込み
(40 : 40 : 20)	平年並か低い（少ない）見込み
低い（少ない） 確率が50%以上	低い（少ない）見込み

気温・降水量・日照時間等の平年値につきましては、次のページをご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/sankou/okinawa1.html>



天気日数（晴れ日数及び降水日数）の平年値につきましては、次のページをご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/tenkinissuu/tenkinissuu.html>

